



ボーイスカウト東京連盟
あすなる地区広報誌
第11号

2016年9月6日
組織拡充委員会

祝 隊褒彰綬、特別年功章

6月23日(木)、西荻・勤労福祉会館で地区協議会が開催されました。

当日は表彰伝達があり、かっこう章が杉並13団の椎木誠一さんに、50年の隊褒彰綬と団50年章の旗が中野8団、杉並6団に伝達されました。

また、隊褒彰綬（環）を受章された隊と、特別年功章の受章者は以下の方々です。

隊褒彰綬（環）

種別	隊別
20年綬	中野 8団 ボーイ隊
	杉並 4団 ビーバー隊
25年綬	中野 8団 ビーバー隊
	杉並 11団 ビーバー隊
30年綬	中野 5団 ビーバー隊
35年綬	杉並 12団 ボーイ隊
	杉並 13団 カブ隊
40年綬	杉並 11団 ボーイ隊
45年綬	中野 5団 ベンチャー隊
	杉並 5団 ベンチャー隊
50年綬	杉並 5団 カブ隊
	杉並 6団 カブ隊

特別年功章 受章者

種別	氏名	所属	種別	氏名	所属
5年章	花輪 圭	杉 8	20年章	中村 俊幸	中 8
	中村 聡	杉 13		月出 毅	中 11
	幾代 貴	杉 13		新田 義政	中 11
10年章	森山 武彦	杉 6		金田 一良	中 11
	朝倉 譲	杉 6		宮地 大介	中 11
	三浦 範子	杉 6		柴田 悟	中 11
	名和 一成	杉 13		本間 幹人	杉 3
15年章	太田 昇	杉 3		加藤 研也	杉 4
	太田 浩美	杉 3		山中 喜美子	杉 8
	左奈田 将実	杉 3		大島 正和	杉 8
	森本 和夫	杉 6	山中 一郎	杉 8	

菊スカウト章 おめでとう！

7月28日(木)、西荻・勤労福祉会館で開催された地区委員会のあと、杉並6団の崎谷英理人さん、佐野航介さん、杉並8団の馬目武尊さん、澤田裕登さんの4名に、佐藤地区委員長より菊スカウト章が手渡されました。

また、8月1日(月)、あんさんぶる荻窪で開催された各種合同運営委員会に先立ち、杉並4団の広瀬健介さん、草薙 稜さんに、佐藤地区委員長より菊スカウト章が手渡されました。



WB研修所の修了 おめでとう！

9月1日(木)、なかのゼロで開催された地区ラウンドテーブルで、以下の方々にウッドバッジ研修所の修了証が下地地区コミッショナーより伝達されました。

杉並3団	ビーバー隊副長	熊沢 溪一郎	ビーバー課程
杉並3団	カブ隊副長	佐奈田 将実	ボーイ課程
杉並4団	カブ隊副長補	佐々木 光	カブ課程
中野5団	カブ隊副長	大屋 秀輝	カブ課程



特集

大自然の中で 夏キャンプ・舎営!

カブは松原湖、ボーイは河口湖

杉並4団 団委員長 並木俊久

カブ隊の舎営は信州佐久に近い小海町の松原湖畔で、8月10日から15日までの5泊6日の日程でした。

公共交通の便があまり良くはないのですが、遠くに来た感じは充分です。標高が高く、天候にも比較的恵まれたため、快適な活動ができました。星座観察のときに曇っていたのは、ちょっと残念でしたが。



2日目は、松原湖周辺の湖沼群の探検ハイク。翌日は野外料理等でゆっくりして、4日目はハイライトの高見石登山に挑戦しました。麦草峠を起点にして、丸山、高見石小屋、白駒池を巡り、起点に戻ります。北八ヶ岳の代表的周遊コースの一つだけあって、樹林帯、岩山、眺望、栈道、湖、坪庭等、変化に富んだコースでした。

今年はずさぎのスカウトが多かったため、「組のために何ができるかを考え、考えた事に挑戦すること」をプログラムの基本とし、組集会、休憩の時間をたっぷり取りました。

このため、組の統一感が生まれ、最終日にスカウトが「もう帰りの?」の言葉に、隊長としては、“してやったり!” だったと思います。



ボーイ隊のキャンプは、8月2日から7日までの5泊6日でした。場所は、河口湖オートキャンプ場でしたが、通常オートキャンプ場として営業している部分より奥の、整備されていない場所をお願いして使えたので、まったくの林間サイトでした。

キャンプ場は富士山駅(旧・富士吉田駅)から3km程度と近いため、すべての野営備品をスカウト自ら携行して、団本部との間の全行程を往復できたのは、キャンプ全体の達成感を高めるうえで好都合でした。

メインは、富士山を巡るトレイルコースから、各班があらかじめ自分たちで選んだ部分を踏破するプログラムです。

パート1はキャンプ3日目、各班とも河口湖大橋から足和田山を經由し、風穴に至る約15kmを歩きました。

パート2はキャンプ4日目、各班独自のコースとし、山中湖から「道の駅富士吉田」または河口湖大橋に至る7km~15kmの行程です。両日とも無事に踏破でき、手応えを感じたようです。

2日連続のハイクや往復の長距離歩行で、結構バテるかなと思いきや、キャンプ中のワイドゲーム、ナイトゲーム、小営火、大営火とも盛り上がり、最後まで全員元気で帰京してくれたのはなによりでした。



各隊とも一回り大きく成長！

杉並11団 団委員長 佐藤 武信

今年も我が団の夏季諸活動が、指導者の方々の熱意とスカウト達のチャレンジ精神、そして各家庭のご協力により、多くの果実を得ることができました。さらに守護の天使に見守られ、安全に終了できたことに感謝する次第です。

ビーバー隊は、8月27日、団本部のカトリック下井草教会で「夕涼み会」を実施しました。開始時はあいにくの雨模様でしたが、スカウト達はジャガイモや野菜を洗うお手伝いをして、保護者の方々とバーベキューを楽しみました。食事後は雨も上がり、ミニファイヤーを予定どおり実施しました。自隊の活動から帰着したカブ隊も参加して、歌やゲームやスタンツなどの出し物で、大いに盛り上がりました。

カブ隊は、7月29日～8月1日、山梨県上野原市の「さがざわキャンプ場」で、「バック・トゥ・ザ・ネイチャー」をテーマにして行いました。目玉のプログラムは沢登りで、自然に帰って思う存分楽しむことができ、スカウトたちから一番楽しかった、またやりたいという声が多く聞かれました。このほか川遊び、デン作り、登山、竹細工、マスつかみ、スイカ割り、野外ゲーム、星空観察、キャンプファイヤー、肝試しなど、盛りだくさんの内容でした。食事は自炊で、どの料理もおいしく頂きました。組を中心にチームワークもよく、いろいろなことにチャレンジし、キャンプを通じて一回り大きく成長しました。

ボーイ隊は、8月12日～16日に「第12回日本アグーナリー」に参加しました。大会テーマは「We Can! 富士からともにはばたこう」です。高橋隊長が大会プログラムを支援する関係上、岡島副長には隊長、副長にはカブ隊の奥村副長をお願いし、ボーイ6名、カブ1名が参加しました。当初は「障がいのあるスカウトのアグーナリー？」と乗り気でないスカウト達も、大会2日目から気分が乗りはじめ、最終日には「帰りたくない！」と、すっかりアグーナリーで体験したプログラム活動・奉仕を満喫したようです。

他団のスカウト、リーダーやスタッフの方々、海外派遣隊とも積極的に交流し、明るく元気に挨拶する姿勢は素晴らしいものでした。「将来はこのような大会で、スタッフとして裏方のサポートをしたい。次回も参加したい」と前向きな発言もあり、今後の成長の一助になったと感じられた5日間でした。

ベンチャー隊は、隼スカウト章取得に挑戦中の探検旅行とプロジェクト富士登山、製粉調査、真田丸で人気の上田城調査と、スカウト達がおのおのテーマに基づいて企画、立案、実施しましたが、富士登山は残念ながら台風の影響による悪天のため、2度の延期を余儀なくされ、仕切り直しとなりました。

ローバー隊は、8月19日から8月22日、式根島及び神津島でキャンプを行う予定でしたが、悪天候で後発組のジェット船便が欠航となり、島でのキャンプは中止となりました。先発組は往復で合計20時間近く船に乗っていたことになりましたが、山中湖にある隊長の別荘で今後の活動内容の会議と、プチバーベキューを行いました。

来年こそは式根島及び神津島でキャンプをしようと、リベンジに燃えています。

さらにこの夏は、御殿場で開催された日本カトリックスカウト協議会主催のキャンポリーに参加した台湾派遣隊女子スカウト2名のホームステイも受け入れ、国際親善に寄与しました。

以下はホストファミリーとして台湾スカウトを受入れた家庭の体験記の一部です。

『台湾の高校生17歳のSさんと、18歳のYさんを受け入れました。連日過密スケジュールでしたが、原宿ショッピング、明治神宮、浅草寺、東京江戸たてもの園、吉祥寺へ一緒に出かけました。小学生の我が子らは、同じアジア人の存在を生活の中で感じ、二人のお姉さん達と毎日東京見物ができた楽しい日々だったようです。

短い間の交流でしたが、Yさんは来年も来日するとのことで、その時は連絡をくれると言っていました。Sさんは、お互い言葉でのコミュニケーションが少し難しいところがありましたが、その分気持ちを伝え合おうと双方が努力して、瀬田教会で開催された「フェアウェルパーティー」では、お互い涙を流しながらハグをしました。とても暖かい気持ちになれた瞬間でした。このような大変素晴らしい体験が出来た事を、神様に、そして関係者の方々に感謝します。ありがとうございました。』



豪雨もあったキャンプ

中野7団 ボーイ隊隊長 窪寺健太郎

私たち中野7団は自らの力と知恵を大自然の中で試し、辛くとも助け合い、共に学び、共に成長することを目的に、毎年夏季野営を実施しています。

今年は埼玉県飯能市にある名郷キャンプ場で、ボーイ隊は8月13日から17日、初級2名のハヤブサ班、2級3名のシーガル班の5名で、カブ隊は8月15日から17日、近くにある曹洞宗の正覚寺での舎営で、4名の参加でした。

開会セレモニー終了後、ハヤブサ班の小学生2人にとっては、初めて経験する自分たちだけの設営になりました。テントを張るのはなかなか力のいる仕事です。食堂用フライも張り、テーブルをセットして、大きな丸太を拾ってきて椅子にします。かまどや薪置場も作り、炊事穴を掘って、4時頃には夕食の準備にも取り掛からなければなりません。仕事は山のようにあり、チームワークの重要性を自然に理解します。

もちろんリーダーは見守っていますが、リーダーは常に半歩だけ前を歩むようにしています。二歩も三歩も前に行かず、半歩下がって教えます。そして手をつなぐのではなく、また半歩前を歩みます。

野営中にハードなハイキングをします。川に潜って魚を捕まえる挑戦もしました。工作物もいろいろ作りました。そして、3日目には恒例のカブ隊、ボーイ隊合同の夕食会を行いました。今年は肉団子のシチュー、春雨スープ、串揚げの他に、生春巻き、カエルの揚げ物、台湾の愛玉子ゼリーというメニューでした。天日干しのタイのカエルの揚げ物は、鶏のから揚げを少し淡泊にした味で、スカウトに好評なので、4~5年前からメニューに入れていました。

スカウトたちが社会に出て、世界中を相手に誇りを持って仕事をする時に、「その国の料理を一緒においしく食べる」ことは相手を尊重し、仲良くなる一番の近道です。ボーイ隊もカブ隊もきれいに食べました。

最後の夜はキャンプファイヤーです。出し物を考えながら、夕食準備に取り掛かろうとした時、台風の影響でバケツをひっくり返したような豪雨が降り始めました。かまどはみるみる水たまりになり、薪置場の薪も豪雨で濡れていきます。このため、夕食作りは豪雨との対決となりました。幸いキャンプ場内の作業場におが屑があり、「おが屑作戦」となりました。A字形に組んだ小枝に、おが屑をたっぷりふりかけ、火をつけました。細い薪に火がついて太い薪が燃えたら、かまどの周りに湿った薪を並べ、乾かしてはくべを繰り返して、炊き込みご飯とスープができました。豪雨の中、びしょ濡れになりながらも、みな男臭い笑顔を見せてくれました。

食事の後、しばらくすると突然雨がピタッとやみました。すぐに集合を掛けてキャンプファイヤーを開始し、みんなで歌い、踊り、大声で叫び、大いに盛り上がりましたが、30分もするとまた豪雨になりました。即時撤収となり、台風に振り回されたキャンプファイヤーでした。

撤営の日は嘘のような晴天で、みんなたくましく成長し、無事に帰隊しました。

今年はカブ隊、ボーイ隊とも、参加スカウトは少数でしたが、バンチャー隊、ローバー隊の支援もあり、無事に夏季野営を実施できました。



カブリンピックーリオより熱いぞー 中野8団 カブ隊隊長 沼上幸一

カブ隊は8月11日から14日の3泊4日で、房総半島の中央部、長柄町にある「千葉市少年自然の家」で舎営を行いました。今年のテーマは、「中野8団カブリンピックーリオより熱いぞー」。オリンピック競技種目を模した、さまざまな種目に組のみんなでチャレンジし、勝敗を競いました。

現地に着いて最初の作業の“選手村建設！”は段ボールを使って家（デン）を作りました。次は“会場視察！”で、端から端まで歩くと30分以上かかるほど広い少年の家の敷地内を、オリエンテーリングでぐるっと見て回り、どんな施設があるのかを確認しました。



2日目からはいよいよ競技開始、まずは“射撃競技！”です。射撃は竹製水鉄砲の制作から始まりました。そして、どちらの組が早く、遠くの的を撃ち抜けるかの“ライフル射撃”と、相手組の頭に付けた的を撃ち落とす“クレー射撃”の2種目を行いました。結局は水鉄砲合戦ですから、もちろん終わった後は全身びしょびしょです。

3日目は“シンクロナイズドスイミング！”。近くの町営プールで、ベンチャースカウトのお姉さんの指導のもとで演技のはずが、水の魅力に負けてただの水遊びに…。夜は、“閉会式（カーニバル）！”。近くで野営をしていた、ボーイ・ベンチャー・ローバーと、遊びに来たビーバーを合わせて、盛大なキャンプファイヤーを行いました。

最終日の競技は、閉会式の後となってしまいましたが、花形の“陸上短距離走！”のトラックは田んぼの中です。腰まで泥水に浸かって田んぼの中を全力疾走。わずかに10m弱の距離でも、足を取られてなかなか進めません。転んだり、撥ねたりで、リーダーをはじめ、全身泥だらけになりました。

そのほかにも、ナイトハイクや野外炊事など、盛りだくさんのプログラムを体験しました。日中の暑さを考慮して、正午は木陰で休む、水に触れるプログラムを多く取り入れる、などの工夫や、東京と比べると湿度の低い気候のため、熱中症などの病気や怪我もなく、4日間元気いっぱい活動ができました。

ボーイ隊・ベンチャー隊は、長柄町にある勝古沢キャンプ場で、3泊4日のキャンプを行いました。まわりを木々に囲まれ、大自然を満喫できるキャンプ場で、スカウト達は野外工作やハイキングを行いました。野外工作では、竹の伐採から始め、立ちかまど・炊事台・流しそうめん台などを作りました。3日目のカブ・ビーバー・保護者の訪問デーでは、この流しそうめん台を使い、ホストとして「流しそうめん会」を運営し、訪問者をもてなしました。4月に上進したスカウトが多く、まだまだキャンプに慣れているとは言えませんが、そこは班員同士で助け合い、協力し合うことで見事に補っていました。

印象的だったのは食事作り。5月のキャンプでは2時間以上もかかっていたことが、前回の反省を生かし、役割分担を明確にして取り組むことで、きっちり時間内に食事が出来上がっていました。また、班をうまくまとめていた班長や、技術指導やアドバイスを積極的に行っていたベンチャースカウトも印象的でした。短い期間の中でも、スカウトの成長を感じ取れた、充実したキャンプとなりました。



多摩川ハイキング、完結！

中野11団 カブ隊隊長 林 一輝

「ハイキングがしたい」と強く希望するスカウト達に応じて計画された「多摩川ハイキング」。それは4月から1か月ごとに開催し、夏季キャンプを含む全5回の行程に分けて多摩川を歩くことで、我々が住んでいる東京を流れる代表的な河川である多摩川の姿を身をもって知ろう、というモノである。

そして、夏。我々中野11団カブ隊は、春から始めた多摩川ハイキングの集大成として、奥多摩の地に降り立った！目的地は多摩川源流部に位置する山梨県小菅村で、奥多摩駅から20km程度の行程を3泊4日かけて移動するのである。

キャンプ初日は、奥多摩駅から途中の8km地点までを歩く。「集大成とあって緊張した面持ちで…」なんてことはなく、スカウト達はいつも通りの気楽な様子で、「ちゃちゃっと歩いちゃおうぜー」などと言いながら歩き始め、ゆだるような暑さに耐えつつ、予定通りの時間で8km地点に到着した。

その後氷川キャンプ場に戻ったスカウト達。待望の川遊びの時間である。川に入って気づいたが、水温が滅茶苦茶低い！夏なのか疑わしいレベルで冷たいのである。怖気づく大人たちとは対照的に、子供達は潜ったり、鬼ごっこしたりで、全力で遊んでいた。スカウト達のバイタリティーは凄まじい…。

2日目は一気に山梨県小菅村にある最終目的地の平山キャンプ場まで向かう。しかし、ここに来てトラブルが…。スカウト達が楽しみにしていた奥多摩湖のドラム缶橋が、ダムの水不足のせいで渡れなかったのだ。モチベーションダダ下がりの子供達は「暑い、面倒くさい」などと文句を言い始めた。だがそんなスカウト達に、「早く着けば遊ぶ時間増えるぞ？」とささやけば、なんと時速6kmという予想以上のペースで歩ききってしまった。なんて単純な奴らなんだっ…！



最終目的地に着いたので、3日目は終日遊ぶ時間となっている。午前中はキャンプ場でマスとヤマメのつかみ取りをした。思った以上に魚の逃げ足が速く、さらに捕まえた魚を入れていたバケツに足を引っかけて逃がしてしまい、捕まえ直すなどのトラブルもあったが、何とか全部捕獲した後はスカウト自ら魚をさばき、塩焼きにして食べた。さばくのは初めてだったようだが、飲み込みが早く、後半はスラスラとさばいていた。

午後は「フォレストアドベンチャーこすげ」というアウトドアパークに向かった。ここは木と木の間をロープや板などの上を歩きながら、ゴールを目指すというモノで、問題は足場が地上から10m以上離れた高さにあるということである…！日常では味わえないスリルがここにはあるが、大人でもこれは怖い！スカウト達も最初はビビっていたが、慣れると逆にスリルを楽しんでいた。ただ、最後のコースにある130m以上のジップスライドは、とてつもない爽快感があった。スカウトもリーダーも、ターザンさながらに雄叫びをあげる始末である。

最終日の帰りは思い出話もそこそこに、疲労の蓄積から爆睡していた子供達。笑ったり泣いたり、いろいろあったキャンプだったが、多摩川ハイキングを通して、助け合ったり協力し合ったりなど、一回りも二回りも成長していく姿を見ることができた。ここでの経験を糧に、今後もより良い青少年として成長していったと願っている。



伊勢で全国神社スカウト大会に参加 杉並13団 副団委員長 椎木誠一

今年、杉並13団は「第12回全国神社スカウト大会」へ、団キャンプとして参加しました。全国神社スカウト大会は5年に一度、伊勢神宮のおひざ元である三重県伊勢市にて開催されます。今回は8月6日から9日までの3泊4日、全国の神社スカウト(ボーイスカウト48ケ団、ガールスカウト13ケ団)、台湾よりは「中華民国童軍、台湾女童軍他46名」、合わせて1530名が参加しました。ピーバーとカブ部門は伊勢市二見の旅館で舎営を行い、ボーイスカウト以上は三重県営総合競技場周辺にて野営を行いました。



本大会はスカウトがこれまでに取得した能力や技能を発揮し、友情を深めるだけでなく、「スカウト」としての誇りを培う場として開催されます。今年は『神様に笑顔であいさつ 和の心』をテーマに開催されました。

8月6日の開会式では、各団の入場行進、スカウト宣言がありました。翌7日には早朝より参加者全員による伊勢神宮合同参拝行進が行われ、内宮参拝を行った後、「おかげ横丁」を探索し、午後は全隊で二見浦海岸での海プログラムを実施しました。

8月8日には五十鈴川にて、野営のボーイスカウト以上の部門は「みそぎ行事」への参加をしました。早朝、五十鈴川でのみそぎは、冷たい川の水の中でしたが、気持ちも洗われ、神社スカウトとして思い出の残る活動となりました。

その後、全隊で鳥羽の水族館見学、夜は参加者全員による大集会と閉会式が開催されました。大集会ではそれぞれの地域の自慢の出し物を披露して、楽しい集会となり、多くの仲間との友情が芽生えました。

大型観光バスをチャーターして、片道9時間近い移動でしたが、全国の神社スカウトが一同に集まり、互いに友情を深め、思い出深い夏キャンプとなりました。スカウトたちは真っ黒に日焼けしましたが、ケガ人や体調を崩すスカウトもなく、元気に大宮八幡宮神殿で帰着の報告をしました。

全日天候にも恵まれ、今回の大会テーマである「神様に笑顔であいさつ」ができ、「和の心」を大切にしたい素晴らしい夏キャンプが実施できたことを報告します。



伊勢神宮内宮での参拝



五十鈴川でのみそぎ神事



大集会 東京地区の出し物



大集会にて BS 13団とGS 62団

パワースポットの大岩

中野3団 ベンチャー隊隊長 久保田隼和

中野3団のベンチャー隊は、7月27日より31日まで、世界文化遺産として登録された合掌造りの集落がある、富山県五箇山に隣接した相倉キャンプ場で夏季キャンプを行いました。

五箇山の合掌造りの集落は、棚田やあぜ道が広がり、小川が流れて、昔懐かしい「日本の原風景」そのものです。

キャンプ場は比較的空いていて、テントを張りやすい、広々とした水はけのよい草原で、使いやすく、快適でした。ただ、「クマ出没注意」の恐ろしい看板がありましたが、幸い一度も出くわすことはありませんでした。

今回のキャンプでは、合掌造りの家に実際に泊まり、構造を観察したり、歴史を聞いたり、文化を学ぶプログラムを行いました。合掌造りの家で最も印象に残ったところは、釘を一切使われていないところでした。話を聞くと、昔は釘が貴重どころか、そもそもなかったからだそうで、木を組み合わせ、はめ込んで作られています。

都会にはない自然の世界を訪れるのは、キャンプの醍醐味の一つで、この地方の名勝で、また神聖な場所として崇められているパワースポット「天柱石（てんちゅうせき）」をキャンプ中に訪れました。パワースポットとは、一般的に「運氣が上がる特別な場所」だそうで、キャンプのパワーをもらいに行きました。

まず「天柱石」はたどり着くまでが大変です。車で通れる道を過ぎると、細い荒れた山道となり、分かれ道も多く、地図をよく確認しながら行く必要があります。標識もほとんどなく、道が合っているのか不安になりながらも、なんとかそれらしき駐車場へ到着して「天然記念物 天柱石」の看板を見つけ、無事到着できて一安心です。

実際の「天柱石」は、信じられないほど巨大な岩で、写真ではとても伝わらない迫力ある巨大な岩です。空から降ってきてここに突き刺さったように、今にも倒れてきそうに傾いていて、近寄るのが恐ろしく感じるほどです。触るとほんのり冷たく、押してもビクともしない大岩は、まさに圧倒的なパワーを感じるスポットでした。

行く前と行った後で、スカウトの感想が大きく変わりました。正直なところ、皆は「普通の大きな岩だろう」「ちょっと形が変わってるくらいかな」と侮っていましたが、行った後ではみな口々に「見上げると首が痛くなるくらい大きい」、「予想をはるかに超えた」、「こんな大きな岩は見たことない」と、驚きの感想です。加えて、「写真では伝わらない、これは生で見ないとすごさがわからない」という感想も印象的でした。たくさんのパワーをもらってキャンプ場に戻りました。

その日の晩御飯では、難しい飯盒炊飯の水加減も完璧で焦げもなく、味も良しの大成功。長年キャンプを経験したリーダーも「今までで一番おいしく飯盒炊飯ができています」と太鼓判。パワースポットでパワーをもらったおかげかもしれません。もちろんそれだけではなく、スカウトの努力もありました。みなさんも一度、パワースポットを訪れてみてはいかがでしょうか。



韓国派遣で得たもの

中野11団 ベンチャー隊 東條雅臣

この夏、僕達日本派遣団は7月28日から2泊3日の結団キャンプを経て、7月30日から8月3日までの「韓日スカウトフォーラム派遣」、8月4日から8月9日までの「韓国ジャンボリー派遣」に参加してきました。

「韓日スカウトフォーラム派遣」は、平成11年度から日本連盟が実施している「日韓スカウト交歓計画」による韓国スカウトの日本訪問との相互交流として、ボーイスカウト韓国連盟が平成13年度より日本スカウトを韓国連盟の経費負担で招待し、スカウトフォーラムを中心としたプログラムを実施するものです。

14回目となる今回は“For the Sustainable Future”をテーマに、韓国のスンチョン市内のスカウトセンターで行われ、約50人のスカウトと約30人のスンチョン高校の生徒が集まりました。英語を使った会議はもちろん、フードフェスや市内観光、インターナショナルナイトやホームステイなどを通して、韓国の文化、歴史、生活を存分に知ることができました。

人生初の海外派遣だったため、不安は感じていましたが、「何事にも積極的に参加しよう!」と思い、英語でのプレゼンや各国代表スピーチを率先して経験したお陰で、後悔を残さずに帰国できました。しかし、“日本人は他の国の人より自分の国の文化を知らない上、相手の国の文化に興味を持たなすぎだ”ということが問題点として見えてきました。自分の国を紹介するにあたって、まずは日本という国の全ての文化に触れる必要があると思いました。

フォーラム派遣終了後、テグ市のジャンボリー会場へ移動し、後発隊10人と合流し計23人で、今回で14回目となる「韓国ジャンボリー」に参加しました。

韓国ジャンボリーは約9,000人の韓国スカウトと、約1,000人の海外スカウトが参加しており、交流会やプログラム、アリーナショーを通して、韓国やその他の国のスカウトと友情を深め合いました。特にアリーナショーで披露した「南中ソーラン」は、終わったあと、道端で外人スカウトが真似するほど反響があったので、嬉しかったです。

また個人的には、各国代表者数名が参加したインターナショナルフォーラムに参加できたことが心に残っています。韓日フォーラムでは韓国スカウトが韓国語を使って話し合いをまとめていたため、スムーズに進行できていたのですが、代表フォーラムでは「英語圏外の母国語の種類が多くなると、こんなにも話し合いが難しくなるのか」と感じさせられました。そして“英語でしっかりと主張ができる”ことの大切さを再認識させられました。



筆者 左側

ワールドベンチャーキャンプに参加 杉並5団ベンチャー隊 関戸 陽輔

7月23日から8月3日までの12日間、「第19回ワールドベンチャーキャンプ」に参加してきました。

「ワールドベンチャーキャンプ」は、東京連盟が主催する海外派遣事業の一つで、19回目をむかえる今回は、アメリカ合衆国カリフォルニア州の“Forest Lawn Scout Reservation”というキャンプ場で開催され、日本からは指導者4人、スカウト19人(男子12人、女子7人)が参加しました。

このキャンプ場だけで2,000エーカー(約245万坪)の広さがあり、スイミングプールでの水泳、湖でのカヌーやカヤック、乗馬、アーチェリーや射撃、ロッククライミングやCOPE (Challenging Outdoor Personal Experience)、張られたロープを滑車で駆けめぐりジップライン、自然観察、クラフトや粘土細工といった活動できる場所です。

サマーキャンプは、ベンチャリングに所属している14歳から20歳のアメリカのスカウト達が運営しています。

日曜日の夜に行う「オープニングキャンプファイヤー」と、金曜日の夜に行う「クロージングキャンプファイヤー」と、キャンプファイヤーは2回も行われます。キャンプファイヤーといっても、9割が劇という日本とは違いがありました。

水曜日はハイクデイとして、サマーキャンプの参加者全員が、色々なところにハイクに出かける日となります。

また、キャンプ中には自由時間があり、自分の興味のある活動や取りたい章の講習をひとつのキャンプ場できるといった、日本のキャンプとは違う点も多くありました。私は、カヤックや乗馬、アーチェリー、ロッククライミング、ジップラインなどをしました。ほとんどが初めての体験であり、とても楽しかったです。

金曜日の午後に行った“TOKYO Afternoon”では、3つに分かれた班ごとに、日本料理であるチラシずしや、そうめんの試食、書道やけん玉などをアメリカのスカウトに体験してもらうことで、日本の文化を知ってもらうことができました。

今回の派遣にあたっては、事前に5回の準備集会があり、プログラムや気候、必要な荷物などについて説明を受けていましたが、行く前では実感がわからず、いざ行ってみて学んだことが多くありました。

ロサンゼルスは乾燥しているため、1年を通じて15日くらいしか雨が降らず、朝はとても肌寒かったこともその一つで、食文化や生活習慣の違いなどを肌で感じることができ、新しい発見もありました。

一緒に行った仲間は全員初めて会うスカウトでしたが、キャンプ中に色々話をするうちに打ち解けて、かけがいのない存在になりました。今回参加した「第19回ワールドベンチャーキャンプ」は、一生忘れることのない思い出になりました。

この経験を忘れることなく、今後の活動に活かしていきたいと思います。



各団の夏の宿泊行事

今年の夏、各団の隊は森で山で、表の通り、宿泊を伴う舎営やキャンプを行いました。

各隊の報告にもあった通り、自然環境に恵まれた場所で、楽しい活動を展開できました。今後、各隊で舎営やキャンプを行う場合に参考としてください。

ベンチャー隊、ローバー隊は、独自に隊キャンプを行った場合を記し、他隊の支援の場合は記していません。
また、宿泊を伴わないビーバー隊は記していません。

団名	カブ隊	ボーイ隊	ベンチャー隊	ローバー隊
中野 3団			7/27～31 4泊5日 富山県南砺市五箇山 国民休養地キャンプ場	
中野 5団	8/14～17 3泊4日 【団キャンプ】 山梨県山中湖村 村営山中湖キャンプ場			
中野 7団	8/15～17 2泊3日 埼玉県飯能市 正覚寺(宿坊)	8/13～17 4泊5日 埼玉県飯能市 名郷キャンプ場		
中野 8団	8/11～14 3泊4日 千葉県長柄町 千葉市少年自然の家	8/11～14 3泊4日 千葉県長柄町 勝古沢キャンプ場		
中野11団	8/5～8 3泊4日 奥多摩氷川キャンプ場 山梨県小菅村平山キャンプ場	8/4～8 4泊5日 静岡県浜松市 渚園キャンプ場	8/14～19 5泊6日 八丈島 底土野営場	
杉並 2団	7/31～8/2 2泊3日 【団キャンプ】 山梨県大月市 森屋荘			
杉並 3団	8/11～14 3泊4日 【団キャンプ】 群馬県桐生市 花見が原森林公園キャンプ場			
杉並 4団	8/10～15 5泊6日 長野県小海町 湖畔館	8/2～7 5泊6日 山梨県河口湖町 河口湖オートキャンプ場		
杉並 5団	8/12～16 4泊5日 カトリックスカウトキャンポリー 静岡県御殿場市 中央青少年交流の家			
杉並 6団	【杉並6団、杉並8団合同】 8/4～7 3泊4日	【杉並6団、杉並8団合同】 8/10～14 4泊5日	8/11～14 3泊4日 長野県白馬村 白馬岳村営頂上宿舎他	
杉並 8団	埼玉県飯能市 西山荘荻美亭(民宿)	山梨県須玉町 金山山荘キャンプ場	8/20～22 2泊3日 茨城県つくば市吉瀬 フォンテーヌの森キャンプ場	
杉並 9団	8/11-14 3泊4日 静岡県富士宮市 富士山YMCA		8/9-14 5泊6日 富士宮市田貫湖キャンプ場 富士山YMCA	
杉並11団	7/29～8/1 3泊4日 山梨県上野原市 さがざわキャンプ場(バンガロー)			8/19～22 3泊4日 式根島(大浦キャンプ場) 神津島(沢尻湾キャンプ場)
杉並12団	8/4～7 3泊4日 新潟県佐渡市岩谷口 外海府ユースホテル	8/11～16 5泊6日 福島県南会津町 会津山村道場キャンプ場	8/9～13 4泊5日 山梨県山中湖村 村営山中湖キャンプ場	
杉並13団	8/6～9 2泊3日 神社スカウト大会 三重県伊勢市 伊勢二見旅館			

中野駅前で続く伝統の祝日旗揚げ奉仕

中野の各団

7月18日（月）、「海の日」の祝日、中野3団のスカウトと指導者は、JR中野駅南口のロータリーにある国旗掲揚塔で、午前9時から国旗の掲揚を行いました。

国旗の掲揚に使用されているポールは、1964年に開催された東京オリンピックで使用されたポールで、オリンピックが終了した後、中野ライオンズクラブに2本が払い下げられて、JR中野駅前と中野区新井4丁目の北野神社に設置され、当時中野区の各団が所属していた西部地区に、中野ライオンズクラブから祝日の国旗掲揚の依頼があり続いているもので、このため今でも、国旗掲揚時は中野ライオンズクラブの方々が立ち会っています。

当初はJR中央線をはさんで、中野区の北側の団は北野神社、南側の団はJR中野駅前と、2本の国旗掲揚を手分けしていましたが、北野神社での掲揚はその後廃止され、JR中野駅前での国旗掲揚を継続して行っています。

JR中野駅前での祝日の朝の国旗掲揚と夕方の降納は、中野区内にある6箇団が月単位で、月による祝日数にかかわらず交替で担当し、7月は中野3団が担当することになったものです。

1964年に開催された東京オリンピックの時には、スカウトとして国立競技場などで国旗掲揚の奉仕を経験した指導者も多く、4年後の2020年、再び東京で開催されるオリンピックを控えて、これまで永年にわたって先輩スカウトにより受け継がれてきた祝日の国旗掲揚の伝統や意義を、今後とも引き継いでいきたいものです。



国旗掲揚の準備



中野ライオンズクラブの方々



国旗あげ！



中野3団の皆さん

ベンチャーフォーラム～魅力ある活動とは～

7月24日（日）、西荻・勤労福祉会館であるなる地区主催の「ベンチャーフォーラム2016」が開催され、地区内のベンチャースカウト17名が参加して活発に交流し、仲間意識を高めました。

フォーラムのテーマは「ベンチャー年代の魅力ある活動とは」で、ベンチャー部門の活動をさらに活気ある活動へつなげていくために、どのような視点で、どのような活動を進めていけば良いかなど、「魅力ある活動」について話し合いました。フォーラムで出された個々のアイデアを具体化して、地区ベンチャー部門の活性化につなげることが期待されます。

なお、当日参加の杉並9団の瓜生亘輝さんと杉並11団の山本虎太郎さんは、9月3日～4日、練馬区立開進第二中学校で開催された「東京連盟ベンチャーフォーラム」に参加しました。



心肺蘇生法、AEDの扱い方などを学びました

6月26日（日）、スカウト救急法講習会が中野消防署本署（中野区中央3）で開催され、37名のスカウト、リーダーが参加しました。

午前中は東京消防庁の普通救命講習で、心肺停止状態を想定した心臓マッサージと、人口呼吸の練習を訓練用のダミー人形を使って行い、AED（自動体外式除細動器）の扱い方など、基本的な救命方法の習得をめざし、修了者には東京消防庁発行の技能認定証が交付されました。

引き続いて、午後は会場を南部高齢者会館（中野区南台5）に移して、技能章救急章やターゲットバッジ救護の課題の履修を行い、急病やけがの対応、止血法、三角巾や包帯の使い方を練習しました。

また、庭に出てシートや竹材などを使って担架を作り、患者を安全に搬送する方法などを学びました。



命を守るための救急法

安全管理委員長

武藤八朗

6月26日（日）は、午前中の東京消防庁普通救命講習に引き続いて、午後からは南部高齢者会館で地区コミッショナー、野営行事委員会、進歩委員会、安全管理委員会の協力により、ボーイスカウト救急法も実施されました。

今回のスカウト救急法講習会は参加希望者が多かったため、希望に添えなかった方もあり、次回参加いただけるようお願いいたします。

午前中の講習会での心肺蘇生法・AEDの扱いは、人命にかかわることだけに、講師の指導に従って、決められた手順を確認しながら練習しました。

午後は、あすなる地区の指導者が講師となり、技能章救急章・ターゲットバッジ救護の取得のための課題講義や、三角巾の使い方や患者を運搬する担架の作り方などの実習を行いました。

適切で迅速な応急手当を繰り返し学び、日頃から身につけておくことにより、万が一の災害や事故等の場合でも、「自分の命・家族の命を守る・周りの人の命を守る」ことにつながります。このため、まだ受講されていない方は、次回の習得をお願いします。また既に受講した方についても、自分のスキルアップをめざしてください。

なお、11月27日（日）に東京連盟の「指導者上級救命リフレッシュコース」が開催されますので、多くの指導者の参加をお勧めします。



障害者・高齢者福祉のためのチャリティショーお手伝い

9月2日（金）、中野サンプラザホールで、（公財）日本チャリティ協会の開催するチャリティショー「永遠のスクリーンミュージック」に、あすなる地区としてお手伝いをしました。

（公財）日本チャリティ協会は、障害者の支援や高齢者の福祉のための各種の事業を展開しており、ボーイスカウト東京連盟も協力しているものです。

会場の中野サンプラザには、開演前から多くのお客様が来場し、奉仕の皆さんは2階ホール入口付近で、お客様の誘導、開場後の座席の案内などを担当しました。

車椅子で来場された障害者、ご高齢の方も多く、ペギー葉山や菅原洋一など、ポピュラーやジャズ界の多くの歌手の歌う映画音楽を楽しみました。



星におねだり・阿佐谷七夕まつりお手伝い

杉並12団

夏の風物詩として多くの方々に親しまれている阿佐谷七夕まつりに、杉並12団では毎年お手伝いをしています。

今年の阿佐谷七夕まつりは、8月5日～9日に開催され、5～6日はJR阿佐ヶ谷駅前に設けられた「星におねだり」のコーナーでは、うちわ片手に浴衣姿の方など、多くの皆さんに星形の短冊に願い事を書いていただき、大きな竹に結びつけてもらいました。

また期間中は「ごみ分別キャンペーン」として、駅南口広場でゴミの分別を呼びかけ、パールセンター商店街の中も歩いて、ゴミの分別を呼びかけました。

また、阿佐ヶ谷七夕まつりには、アニメのキャラクターやゆるキャラなど、さまざまな「はりぼて人形」が吊るされますが、スカウト姿で「ごみ分別キャンペーン」を呼びかける、当団作成の「はりぼて」も吊るされました。

